

農工大の樹 その45



— 〈 解 説 〉 —

ニワウルシ

(ニガキ科シンジュ属の種, 学名: *Ailanthus altissima* Rwingle, 別名: シンジュ, 英名: Tree of Heaven)

この種は樹高25m, 直径80cmにもなる雌雄異株の落葉高木です。枝は太く, 先に長さ40-70cmの羽状の葉を付け, 大きな樹冠を作ります。雌株は秋に褐色の翼状果実を穂状に付け, 種子を風に乗せて散布します。この種は乾燥や高温にも耐えて生活でき, 成長が極めて早いのが特徴です。種子繁殖に加えて, 根から新たな個体(根萌芽)を発生させる能力も持ち, 繁殖力は旺盛です。原産地の中国ではこの種を養蚕の餌植物として栽培していますが, この生命力のために, 今では世界各国で野生化しています。我が国には明治8年に渡来したと言われますが, 各地で野生化し, その駆除に追われているのが現状です。和名のニワウルシは庭漆のことで, ウルシに似た葉をもつ木の意味で呼んだものです。また, 別名のシンジュは神樹で, 西洋の俗名であるTree of Heavenを直訳したものです。この木は来日当初, 庭木として植えられ樹皮を染料や殺虫剤として用いましたが, 今ではほとんど利用されていません。この種はセンダン科のチャンチンとよく似ていますが, この種は小葉の基部に1~2つの大きな鋸歯があること, チャンチンは春の新緑が赤や黄色になり美しいことで区別できます。

(農学部教授 福嶋 司)